京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年
本紙定價（▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢）
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金（▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢）
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

京城居留民團公文

京城居留民團告示第一號
當民團區域内ニ居住スル者ニシテ明治三十六年四月ヨリ明治三十七年四月一日ニ至ル間ニ出産シタル兒童ハ來ル四月一日就學ノ始期ニ達スヘキニ付該兒童ノ保護者ハ三月二十日迄ニ入學願ニ戸籍謄本ヲ添ヘ當民團役所ニ提出スヘシ

明治四十三年二月十九日
京城居留民團民長 古城管堂

雜報

滿洲大豆の暴落

昨今滿洲大豆は大連相場四圓同豆粕三圓を唱へ各二十五錢方の下落を呈せり隨つて兵庫市場の如きも多少の低落を示すに至れり抑も之れ等の原因は産地に於て一時歐洲約定品の買附を急ぎたるため一般に産地強硬を唱へたるが頃日來の如き高値は實際歐洲市場に於て引合ふべき價格にあらざるが故に暴騰を聞きて歐州筋も一般に手控なる有樣なると共に約定物も暫時見合はすに至りたる結果昨秋以來稍々神經過敏に陷れる大連市場は忽ち思惑筋の投げ物を誘ひ前記の如き暴落を見るに至りたるものなるが之れ等は畢境品質に支配されたる分も幾分存するも之れに反し韓大豆は益々好望を以て迎へられ昨今強硬に上押しの姿にあれば從つて出廻り中々盛んなりと

韓國の氣候概況

一月中は氣壓の配置前月と大差なく北西部に高く南部に低しとす風向きは依然として北乃至西を占め平均速度は南岸に於て大なりき平均氣温は南部地方を除く外何れも氷點以下にして釜山の三度七を最高とし龍岩浦の氷點下九度六を最低とす其差全國に於て十三度餘を示し之を前月に比すれば概して均等なるも最高氣温は上旬に起り最低氣温は各地共末日に現はれ龍岩浦に於ける氷點下十八度七は二十年來未曾有の最低たり降水量は南岸及東岸に多し中部及西岸に少なく快晴日數は北部に多く何れも十日内外にして龍岩浦の十四日を最多とし中部以南に少く木浦の二日を最少とす降雪は中部南西部及北東部に多く十日以上にて城津の十八日を最多とし釜山の一日を最少とす暴風は釜山に十三日城津に四日過少なりし外其他は一日乃至二日の過多なりき又結霧は木浦七日大邱十日其他は約半月以上平壤の如きは二十三日に及べり濃霧は京城の三回最も多く平壤元山に各二回仁川に一回ありたるのみ低氣壓は韓國附近を經過せしこと七回に過ぎざりしど雖も九日及十日揚子江流域内に續發したる低氣壓の東進するに方りて前者の大島北方遙なる沖を去るや後者も殆ど同位置に至り甚しき混亂の狀態を呈し副低氣壓の發散常なく全く常態に復したるは十五日なりき從つて南韓も亦此の影響を蒙り中旬の上半は天候不良なりし

●釜山迎日灣間航路

釜山を起點となし馬山、巨文島、濟州島木浦及迎日灣の間を航行せる釜山汽船會社最近の營業成績を聞くに甚だ良好の由にて各航路中浦項、蔚山及麗水は大豆の出穀期と青魚の漁期に際會せるを以て各船とも毎航盛況を呈し釜山よりは恰も舊正月なるに依り石油、燐寸、雜貨日用需用品等相應の輸出なり麗水は將來有望の地點にして近來荷物の出入著しく增加し昨年末より毎航綿花及大豆の輸出夥しく木浦に廻送したりと

地方通信

▲全州通信

●●●●物産品評會●●●● 觀察道廳全州種苗場全州地方金融組合聯合して來る三月十八日より十日間全州に全北道産物品評會を開會すべく▲●●●事務所を觀察道廳内に設け係員は目下準備に忙殺せられつゝあり本道内に物産品評會を開催するは今回を以て嚆矢と爲すに依り韓人間には或は能く開催の趣旨を了解せざるものあるべく其結果出品點數豫期に達せざるなきやを危みたりしも昨今の狀況に依れば日韓人競ふて出品するの有樣にて既に事務所に出品申込を爲したるもの少なからざる由なれば此趨勢を以てする時は出品點數は締切期限迄には優に豫期以上に達すべく愈々開會に至らば定めて非常の盛況を呈すべし殊に今回は▲●統監府●特許局より產業に關する有益なる精良の特許機械其他特許品を陳列し機械は開會中毎日運轉して公衆の觀覽に供する由なれば會場の一異彩として公衆の歡迎を博すべく地方人民は此機を逸せず必ず觀覽して工業上の智識[illegible]に資するを要す又物産品評會催の趣旨は其名の示すが如く各自の生產物を出品せしめ其物品の優劣を比較品評し優等の出品物に對しては褒賞を與へ以て物産の改良を圖るにあり（廿三日）

▲平壤通信

●●●●農林講習所と生徒●●●● 平安南道農林講習所にては昨年十二月二十五日の第一回卒業式に於いて二十六名の卒業生を出したるが去る一月二十日より第二回入學試驗を行ひ道内各郡よりの應募者百四十名中官費生五十名私費生二十名の合格者あり授業は本月十六日開始し出席者は目下官費生三十八名私費生四名なり出席者の少きは從來より各公立學校に見る所の現象と同一にして一は昨今舊曆正月に當り居りて各郡の入學者未だ來壤せざるに因る事なるが三月に至れば漸次其數を增すべしと因に官費生と稱するは學費の全部を給するに非ず其一部分を補助するものなりと

▲●●●大豆取引益々好況●●● 昨今穀物の出廻りは依然僅少なれども粟及び大豆のみは益々好分を呈し殊に大豆は京阪地方の好況につれて當地商人中見込買するもの多く爲めに相場は區々にして定まらざるも六圓五十錢より六圓八十錢の間を動きつゝあり目下京阪地方にては九圓七八十錢を唱へ居るを以て輸送せば手一杯なるも該地方の相場尚ほ昂騰の見込あると今一つは大同江解氷せば當地も相場二三十錢方昂騰すること必然なるにより目下大豆は市場に於て最も活潑に取引されつゝありと（廿四日）

日本銘刀傳

第五十四席 邑井一講演

長「何う致しまして、お茶でもお上り又一昨日入來つしやい」其の儘別れて歸つた、此の評判が高くなつて、長吉さんは剛膽だ、三房さんは剛いと云ふ評判、又小鐵は是れを江戸の土産として故郷京都へ歸りましたが、京都でも江戸には豪い人間がある、新場の小安と云ひ、長吉と云ひ大したものだ、或は三房と云ふ男が今に京都に來たら餘程待遇なければやアならんと言つて、小鐵に於ても非常に賞賛したと云ふ、惜い哉會津の小鐵は三十歳の折、即ち明治二十年を待たずして、冥土黄泉の客と相成りました、今に故郷に其の人を止めずと雖も、其の墳墓は遺つて居ります、又新場の小安親分も悲しいかな明治二十五年には、有樂館と云ふ演劇場を拵へるために盡力しましたが、其の後間もなく没しられました、會津の小鐵のお話は是れにて終りと致しますれ是れより又元へ返つて喜左衛門村正のお話に移ります

喜左衛門村正、其の後改心をして、伊勢の多士で殺氣を含まんやうに、心を穏やかに陰陽を調へ、心を籠めて槌を下して鍛れた、然るに伊勢の津で木村某の娘を貰ひ受けまして、夫婦の間に一子を儲け、是れを太郎と號け、成長に從ひまして眞に能く鍛冶の道を熱心に敎はつて居る、十五歳のときに父が病の褥に臥しました、一生懸命に看護をして居る、然るに喜左衛門はもう醫藥の効もなく、終焉の期に伜太郎を招んで

村「さて太郎、其方も今年十五歳、一通り鐵を鍛る道は心得て居やうが、一体此村正は師の正宗より致して、如何にも殺氣を含んで居つて、國を護る寶の刀とは言はれんと申され、如何にも夫れが殘念で、是れまで心を取直して打てども、何うも心に適はん、汝土地を變へて、天晴銘刀鍛冶となつて、父に優るの名を世間に廣め、必ず鍛ねたる刀、脇差、太刀劍に到るまで、殺氣を含まんやう切味の好いのは、確かに名刀なり、殺氣を含まず能く切れることを勤めて覺ねよ此の村正は師の正宗より受けたるには違ひないが、湯加減、火加減は充分とは言へない、汝其の邊の所へ能く心を籠めて修業致せ、」頭を垂れて太郎は「御教訓誡に難有たいことでござる、父上のお言葉心魂に徹し、肝に銘じ跡々に於て能く其仰せを守るでござる、然れ共、今一度は御全快になりまして、私の修業を御助け下さるやう」と言つたがもう此が今生の別れと見ねまして、トウ〳〵其夜退潮と諸共に返らぬ旅へ赴きました、太郎は泣く〳〵野邊の送りも事濟みまして、四十九日や百ヶ日、其の忌服の掛つて居るあひだは、稼業にも付きません、夫れから三年目に母親を失なひ、年十八歳に致りまして、此の太郎父の遺言を守つて此の伊勢の[illegible]を出立に及びまして、日本六十餘州を修業致す心得で一度京都へ上りました、是れより太郎京都の稻荷山に參籠して[illegible]のお告げを蒙り、相州鎌倉へ乘込むことに致しました、太郎は京都へ上りまして、兩三日は此處に滯留して神社佛閣を拜し、名所舊跡を見物致さうと、先づ粟田口へ參りまして國友と云ふ名刀鍛冶は此處に生立たれたかと昔を思ひ、夫れより稻荷山に參詣を致した。

제345호 1910. 2. 27.

東京電報

▲**皇后宮御散策** 沼津御用邸に御避寒中の皇后陛下は昨日香川大夫以下供奉員を隨へ三保の松原清見潟の情景を御賞覽あらせられたり(廿六日)

▲**西皇帝御祝電** 北白川宮妃殿下御分娩に就き西班牙皇帝より我皇帝に對し御祝電あり我 天皇陛下には鄭重なる御謝電を發せられたり(同上)

▲**副統監任命説** 曾禰統監は兎角健康優れず暫く靜養を要するより其筋に於ても此際適當の副統監を選定せんと目下詮議中(廿五日)

▲**工場法案運命** 政友會は工場法案に就て如何に修正を加ふるも完備せざるを以て政府に其撤回を迫り若し政府にして之に應ぜざるに於ては否決するに至るべし(同上)

▲**滿鐵社債使途** 今回滿鐵が政府保護の下に募集せんとする外債四千萬圓の使途は左の如く決定せり(同上)

一 鐵道本線 千七百二十万圓
一 安奉線 三百二十萬圓
一 電氣費 百八十五万圓
一 瓦斯擴張費 三十五萬圓
一 港灣修築費 九百三十萬圓
一 鑛山費 二十万圓
一 旅館費 九千圓
一 地方經營費 七百万圓
計 四千萬圓

▲**韓鐵訴訟代理** 勅令第九號を以て明治四十二年勅令第三號第一項に左の但書を加ふ(同上)
但韓國にて經營する鐵道の事務に係る民事訴訟に就ては韓國鐵道管理局之を代表す

▲**上院少壯派の憤慨** 貴族院に於ける所云少壯派議員は政府が政友會と妥協の結果其財政計畫を根本的に破壞せられたる事實を列擧し豫算案の本會議に於て十分の批評を爲さんと調査中にて土曜會所屬の老成家中にも政府の無誠意を憤慨せるもの多ければ本會議に於ける彼我の論戰は仲々盛なるべしと期待さる(同上)

▲**小學校教員增俸建議** 小學校教員は勅令により判任官の待遇を受くるも其俸給は市町村の負擔に屬するを以て頗る厚薄あり全國の平均十二三圓に過ぎざるを以て教員俸給の幾分を國庫の負擔たらしめん途を開かんとて貴族院議員中に近々一建議案を提出せんとするものあり(同上)

▲**北滿の防穀令解禁** 北滿州に於ける防穀令の發布に關し我政府より抗議を申込みたるが交涉の結果小麥だけ解禁する事に決定したり(同)

▲**中央倶樂部の成立** 大同、戊申、無所屬の三派より成る新政黨は愈よ協商成立して中央倶樂部と名け三月一日發會式を行ふと(同上)

▲**輕便鐵道法案提出** 政府は輕便鐵道法案を衆議院に提出したり

▲**河川改修の建議案** 吉植代議士外十三名は河川改修費增額に關する建議案を衆議院に提出したり

歐洲電報

▲**ル氏伯林訪問** 米國前大統領ルーズベルト氏の伯林訪問は來五月に延期されたり(廿六日着)

▲**英佛兩國暴風** 佛國及英國に大暴風あり被害甚し(同上)

▲**墺外相に勳章下賜** 墺匈國外相エーレンタール伯爵は獨逸皇帝より黑鷲勳章附屬寶玉章を授けられたり(同上)

旅順電報

▲**稅所中將逝去** 旅順要塞司令官陸軍中將稅所篤文氏は病氣の爲め逝去せられたり(廿六日)

雜報

役人商賣の失敗

韓國利源開發てふ標榜の下に營林廠を設け鴨綠沿岸の樹林を伐採し汎く支那方面に供給せしも事志と違ひ種々支障の爲め當初折角の企畫も其甲斐なく餘儀なく鋒を韓內地に向くるに至りしが茲に笑止なるは京龍仁二十餘の木材商にして頻年の不景氣に痛傷を負わる其上に從來唯一の賣込み得意たる諸官衙の需用は一切同材の壟斷する處となりしより同業者の大恐慌を來し既に昨年の夏も京龍仁の木材商は一團となり何等か其筋に向つて緩和策を哀願し若し聽かれざるに於ては本國木材大會に訴へ積極的運動を試みんと迄敎圍かしめしも同業の結合鞏固を缺き徒らに成効を悲觀して其儀沙汰止みとなりし次第なるが一面民業を蹂躪せる營林廠の經營は是亦た成蹟面白からず帳簿上こそ相當の體面を繕ひ居れ實際の缺損は頗々の事にして蔽ふ可らざるものあり其一例を擧れば屋外露曝久しきに涉れる製材は龜裂若くは朽毀により價位を損する事一方ならざるに此場合に處し適宜見切は商機上極て肝緊の事なるに其手續頗る煩雜にして當該吏員は徒に中を厭ふて其職に忠ならず上長亦た其間の私曲を顧慮して適宜の處置を爲す如此にして堆積製材は不斷風雨の暴砂に委し遂には三文の價値をも有せざるに至るも薄冊の面は歷として製材當時の時價により現財產の一部として算せらる如是は單に其一例に過ぎざるも徒に規則に拘泥して商略を知らず所謂役人の商賣迂愚なる一々指摘に勝わずと同業廠員は憮然として語れり(日韓)

國有漁基請願紛爭

慶尙北道淸河郡(迎日灣附近)東面なる二加老、靑津兩村の海岸は國有漁基中にて古來良質なる和布の產地にして兩村民より各採草の出願中なるが靑津(現在戶數四十三戶)の海岸には五個の岩あり二加老(現在戶數九十六戶)の海岸には八個の岩ありて岩の數に於ても二加老の海岸が多きのみならず和布の產出も從ふて多額なるが從來は船主なる者ありて兩村民を監督し兩村民は每年交替採草する慣行にして船主は其功勞に依りて收獲の幾分を王室へ獻上し來りたる程なりき然るに其後船主なる者廢止せられたれば二加老の村民は船主の廢止せられたる今日となりては每年交替して從業する必要なければ兩村は各其村の海岸を區劃して採草すべしと申込みたるに靑津の村民は斯くするときは自分等の收獲は減少すとを以て從來の慣行を繼續すべしと主張し兩村民の間に一大紛擾を惹起し死傷者を出す珍事もありて憲兵巡查數次出張して鎭撫したることとある由なるが靑津村民は郡守に訴へ出で裁斷を請ひければ郡守は靑津村民の主張を非として採用せず此に於て靑津村民は憤慨の餘り大邱地方裁判所へ損害賠償の訴を提起し裁判所にては目下審理中の由なるが農商工部より曩きに岩佐主事出張し實地を調査して此程歸りたるが共願に係る漁場の裏面には往々にして斯の如き紛爭の伏在することとあるべきを以て農商工部に於ては免許後の紛爭を根絕する爲めに最も愼重に調查中なりと云ふ

護衛と保護狀況

暴徒又は火賊の出沒は今尙ほ盛んなるより郵便物の護衛及旅行官民の保護は忽諸に附すべからず而して從來は守備隊憲兵及警察の三者相協議して其の分擔區域を定め之れを實施し來りたるが昨年十一月より守備隊の擔任せる區間にして全然憲兵と警察官との擔任に移りたるもの多く憲兵の配置なき個所は警察官のみに於て警察官の配置なき個所は憲兵に於て又何れも配置ある個所は警察官憲兵に於て合同擔任することゝなり之れが結果新たに
警察官擔任區間(四線)延長三十五里十八町▲合同擔任區間(十八線)同二百十六里七町
增加し之を從來の擔任區間に合算せば
警察官擔任區間(十七線)延長百十八里二十町▲合同擔任區間(四百二十二線)同千三百四十五里十八町▲三者合同擔任區間(二線)二十里
を算するに至り全線一回に付き平均巡查三百八を要する割合なりと

朝令暮改の辨駁
(石塚長官事務取扱談)

近來市場稅徵收問題に對する世評を見るに順川暴動に狼狽して當局者が俄かに其方法を改易したりと傳へ朝令暮改の批難を加へつゝあるが如きも元來該稅徵收に就ては施行當時より一定の方針を執り其監理人をして徵收及納付の義務を負はしめ居りしも事情に暗昧なる地方韓民は課稅の精神を辨別せず兎角の不平を訴ふる爲め財務官吏をして直接彼等に臨み說明の勞を採らしめつゝあり過般暴動の如きも財務官吏が直接徵稅を爲し之に抵抗を受けたるものに非ず則ち徵稅手續に就ては既往現在將來とも同一方法を續行せるのみ何ぞ又批難の聲を聞かんや云々

全南沖合の海戰

全羅南道靈光郡沖合に於て海賊の一團漁船を襲擊したりとの報に接し目下水上警備隊にて搜查追擊中なりとの電報其の筋に達せり

統監官邸の夜會

來る廿八日統監邸に於ける晚餐會並に夜會は曾禰統監都合上歸任延引に付き石塚長官事務取扱統監に代り豫定の通り開催せらるゝ由なり

●**民籍調查の終期了**
昨年來內部民籍課に於て調查中の民籍事務は殆んど終了し來る三月中には全部完了の筈なるが實查上に於ては人民の意嚮極めて良好にして圓滿に進行し成績頗る佳良なりと今調查班一日の調查戶數を聞くに巡查平均二十戶乃至三十戶なるが時と場合及び人家の粗密に依り同一ならざること勿論なり經費は第一回に四万六千四百八圓、第二回に三千四百八十圓を支出したるが其豫定內譯は巡查手當日八一ヶ月三圓五十錢韓人同一圓五十錢にて二萬四千四百三十六圓、警視廳費查員手當一千圓、憲兵隊補助員手當一萬圓、用紙代及運搬費一万四千四百五十一圓なりと云ふ

●**無稅通關輸出入品**
最近關稅局の調查に係る輸出入品の無稅通關を爲したる一箇年の貨物は輸出に於て軍艦用品九萬四千圓、商船用品二十五万七千圓、合計三十五萬一千圓なるが之れを前年度に比すれば七萬五千圓の增額にて又輸入に於ては軍需用品九十一萬圓あり前年度より減ずること二十四萬三千圓なるが輸出入を合せ百二十六万一千圓に及び尙此の以外に無稅小包郵便を合算すれば實に莫大のものなりと云ふ

●**痘瘡流行の兆あり**
本年に入りてより各地に痘瘡患者發生し今尙蔓延流行の兆あり依て今回內部衛生局より各道へ通牒を發し種痘を勵行せしむる事となりたり因みに一月以降同病に罹りたる者左の如し

	患者	死者
京畿水原	一	
黃海松禾	六九	一六
慶北大邱	九	
江原春川	一七	二

●**議會と法律改正案**
一昨廿五日午後兒玉政府委員より統監府石塚長官に宛たる電報左の如し
本日衆議院に於ける明治四十年法律第四十四號中改正案委員會は滿場一致を以て本案を可決せり
因に同案は居留民團立指定學校職員退隱料加算令中「居留民團」の四字を削除する件なり

●**孫秉熙の北間島行**
天道敎會々長孫秉熙は過般朴泳孝を馬山に迎へ同地通度寺に於て兩人密會し何事か秘議せしが其後彼は韓船に搭じて安東縣に渡り夫れより滿洲に入り北間島へ密行せり彼れが失意の朴陵尉を擁して同地排日系との結合を遂げ其旗色を鮮へし來るや否や觀物ならんと

●**地方行政實施視察**
地方行政の統一廢合に關し實地調査の必要あり今回各道に人を派して之が視察をなさしむる事となり既に一兩日中に橫山事務官は忠淸南北、慶尙南北、林田事務官は京畿、江原、黃海の各道へ向け出張約一箇月の後歸任すべしと

●**趙民熙一派の妄動**
趙承寧府總管の知遇に感激して決死國難に殉せんと誓ひたる柳承欽金鮮等の數輩は其目的を貫徹する手段として一機關新聞を起さんと前贊成大臣韓圭卨を說き着々計畫進行中なる由近來彼等の妄動は注意すべき現象なりと

●**高等女學校の移轉**
官立高等女學校が校舍狹隘の爲移轉の內議ありし事は既報の如くなるが新に校舍に宛つべき齋洞漢城衛生會廐舍は內部とも交涉の結果其の同意を得たるを以て不日工事入札の上廐舍の一部を改築し四月初旬移轉を了する豫定也と

●**國有未墾地の貸下**
度支部所管の國有未墾地貸下に付き昨年末の調査左の如し

國別	許可人員	許可反別 步	貸下料 圓
韓人	一一七	七、八七四、〇〇〇	三、九二七
日人	一三	三、九五九、〇〇〇	一、九九九
合計	一三〇	一一、八三三、〇〇〇	五、九二六

●**沿岸警備船の成績**
木浦及麗水々上警備隊は創設以來南部沿岸の警備に從事し居れるが其の行動大に効果を奏し既に十五回討伐に從事し暴徒及海賊三十余名を逮捕したり

●**韓國銀行政府勘定**
韓國政府現在の國庫現計は頗る好調の由なるが昨二十六日の韓國銀行政府勘定に百四十一萬一千八百九圓二十一錢六厘の現金預りを示めし居れりと

●**農林學校生徒募集**
水原農林學校にては來る四月一日二日試驗を執行し本科生四十名を募集する由應募者資格は十五歲以上廿五歲未滿にして普通學校以上の學力を要すると

●**天日製鹽粉碎設備**
天日製鹽は結晶過大にして兎角需要者の氣受け宜しからざるに就き當局者は近々內廣鹽灘に同粉碎の設備を設くと

●**ハリス博士招宴**
櫻井警務局長は一昨二十五日目下來京中東洋布敎總監督ハリス博士を京城ホテルに招待して午餐會を開催せり當日は若林警視總監俵、小松、兩參與官、三浦理事官、岩井警視、木原牧師も參會したりと云ふ

●**統監府法學講習**
統監府內に於ける法學講習會は既報の通り每土曜日退廳後より開催しつゝあり會員一同熱心に研究せるを以て成績頗る良好なりと

●**外國語學卒業式**
外國語學校は來月廿八日卒業式擧行の事に內定したるが當日は學部より大臣次官等列席の筈

●**日韓人の懇親會**
仁川在住の韓人有志者の發起にて日韓人合同大懇親會を開催するの計畫あり目下夫々準備中

●**理事官の送別會**
仁川理事廳員は今二十七日午後七時より八坂樓に於て信夫理事官の送別會を開催する筈なり

●**第二回目自修會**
內部自修會は廿七日午後一時より二回目開催千葉氏の孟子講義は同日より本論に入る由

●**翻譯官補の試驗**
曩きに擧行したる同試驗の成績は來月一日發表の筈

企業獎勵と保護
(三島韓銀理事の談)

韓國經濟界の現勢は依然沈睡の裡に在りて各銀行業者は孰れも金融の緩漫に苦みつゝあり此狀況は世界一般の趨勢にして必ずしも韓國のみに限らざるも特に韓國の如き小經濟の土地に在つては一層其苦痛の甚だしきを感ぜざるを得ず惟ふに這般沈睡の起因に就ては各國各々其事情を異にす可けんも韓國に在ては戰後の反響にして則ち當時盛んに流入せる資金が次第に回收せられたる結果に外ならず換言すれば一時雨後の筍の如く勃興せる各般の事業が戰役の終了と共に縮少の已むを得ざるに到りたる爲めにして寧ろ彼は非常にして是は常態なり然れども世界一般の大勢は漸く恢復の機運を示めし現に日本經濟界の如きは頓みに活氣を呈し株式の暴騰に次いで各種の事業倍々興起せんとするの傾向あり此大勢は直ちに韓國に波及し來る可しとは思はざるも亦幾分の好影響あるは疑ふ可からず何となれば日本起業家の此機運に促がされて韓國に經營を試みんとするもの亦尠からざればなり而して一方是等企業家に對しては相當の保護又は便利を與ふるに吝なる可からず此際盛んに彼等を誘引するは經濟界振興の急務なるに兎角他人の經營に對し難癖を付くるが吾が邦人の通弊にして最も忌む事に屬するは畢竟恰當なる放資口なきに基くものなれば是等企業家の渡來を大に歡迎すると同時に當局者も亦充分其保護獎勵の途を講ずる事肝要なり云々(電通)

●**南海岸の發展狀態**
慶尙道南海岸は氣候及距離に於て日人の來住に適し古來漁民の往來極て頻繁なりしは既に一般の知る處なるが近年に至り永住的移來者は著しく增加し現時同沿岸船舶の寄航地にして日本人部落の著明なるは統營麗水三千浦等なるが統營は目下千人三千浦は同二百人を超え就中麗水は發展尤も盛にして河東海南間の道路應急開鑿により同關係日人の出入頗る頻繁に伴ひ益發展の度を高めんとするの勢あり今後海路に於て順天及筏橋浦間の連絡開始さるゝに至らば一層の發達を促進するに至るべく尙ほ三千浦も晋州間の道途近く竣成に伴ひ輕便電鐵の布設さるゝに至らば一層繁昌は言を俟たず要するに南海岸一帶の未來は有望なりといふべし

●**韓國養蠶獎勵方法**
韓國に於ける養蠶業の有望なる事は備に數年間に其の產額夥しく增加したるに徵し明かなりと雖も何ほ未だ全國に普及するに至らず斯業の發達如何は實に國家の財政に尠からざる影響あり當局者も其の獎勵に腐心せるが農商工部に於ては今回斯業獎勵の一方法として韓國內に產出せる蠶種の良好なるを撰定購入し各地方に無代配付の計畫あり

●**信夫理事官の榮轉**
仁川理事官信夫淳平氏は來月四日出發東上の豫定なるが確かなる筋より聞く處に依れば氏は今回墺國維納駐在大使館附一等書記官に榮轉せらるべしと

●**歸韓留學生の演說**
今二十七日正午圓覺社に於て歸韓留學生崔麟、祭喜斗、柳承欽、李漢卿、吳政善、李恩雨等は少年雜誌社の第一公開式として演說會を開く筈なりと云ふ

●**福永畫伯の來韓**
多年美術院に學び又故橋本雅邦氏に就き邦畫の蘊奧を究め出藍の譽れ高かりし英國福永耕美氏は更に洋畫を研究し折衷妙を得て筆致倍々神に入れりとの事なるが渭山韓水を跋涉天然の美を翫めんと欲し其途次入京し目下京城ホテルに滯在中なり而して近々其揮毫の展覽會を開く由なるが希望の向に對しては其需めに應ずべく尙ほ同氏は肖像畫に堪能なりと

●**大橋大尉の踏查**
京城憲兵分隊付憲兵大尉大橋常三郎氏は黃海道を踏查する爲め昨二十六日夕仁川より海州へ向ふ由なるが其の行程は龍塘浦、海州、翠野場(最近駐在所を燒拂ひたる地)甕湖島、瓮津、大灘方面なりといふ

●**安定根兄弟歸京** 安重根の弟安定根兄弟は四五日中旅順出發歸京すべき旨通知ありたる由なるが其の要向きは安が死後に就きての準備ならんと云ふ

●**朝倉重役の歸任** 廿五日仁川出帆安東丸にて滿鐵重役朝倉傳太郎氏歸連

▲**福島少監の來京** 海軍主計少監福島淸氏は一昨二十六日入京したりと

●**中牟田氏の入京** 前農商工部山林局技師中牟田五郎氏廿五日入京旭館へ

●**元木判事の死去** 平壤地方裁判所長元木直一氏は豫て病氣に罹り名古屋愛知病院にて治療中なりしところ藥石効なく去る二十三日終に永眠したりと

▲**治外法權**▼

片瀨の別莊に靜養中の曾禰統監は元の力士荒岩事年寄花籠を呼寄せて常陸、梅ヶ谷の渡韓を促した▲其口實が面白い、相撲を見せて大に韓國人の尙武の氣風を興奮せしめたいと、而かも是れが年來の宿望だそうな、餘り朝鮮人に尙武の氣風を興奮せしめては、大臣等の護衛巡查が澤山要つて困るであらう▲去る二十日の晚東京は京橋區尾張町橋本樓に於て進步、無名、又新三派代議士の懇親會と代議士連の韓國問題研究會とが催された、處が各代議士連の抱車夫が主人を待つ間に焚火を爲た事から同樓の若者と爭鬪を起し鹽原惟郞、村松恒一郞、鈴木力、守屋此助氏等の車夫は何れも滅多打に袋叩きに逢つたので各御主人偉大に憤慨し樓主を叱責しつゝありしを隣室に居た大內暢三氏がニジヨ出て戲談半分に『此方の車夫だつて惡いんだ』とやると鹽原、村松の兩氏は憤慨の矢先き此野郞と云ひ樣、大內氏をポカ〳〵と擲り付けたので流石の大內氏も頭を抱へて逃げ出したと▲大阪時事所載の某韓銀理事談中に『韓國も資金充實したるより預金利子を引下げ云々』とある果して某理事が此言を爲したであらふか▲第九師團から派遣する臨時韓國派遣隊は四月出發の豫定なるが各隊にては派遣兵に對し鬚を蓄へんことを命じたれば、昨今何れも苦髯に苦心し床屋につき其方法を尋ぬる滑稽を演じ居るゲナ▲內部が麻浦の船橋を許可したのは度支部の方では大に反對で公文を以て內部に交涉したるそうだ

●麻浦架橋問題の内情（三）

無謀なる當局の許可、尙他に二ケ所を新設せんとす、共同物置場の獨專許可を取消さざれば設計を改ためよ

▲共同物置場所　而も上記共同物置場所に就て吾人の聞く處に依れば元來麻浦全体の土地たるや今より二百年許前**月先大君**なる一韓人或る勳功の爲め時の政府より**下賜**されし者にしてそが**二十二代**の孫京畿道高陽住の某なる韓人困却の餘り之を**麻浦同志會**に**千二百圓**にて賣却し該權利今は同同志會の**所屬**なりと云へど内部當局側にては右は全々間違ひにて内部の**所屬**なるは勿論なりと唱へ其の判別は詳かならねど是が取調は古き昔の歷史に**遡ら**ざる可からざるが故にては改めて後日に說かん

▲**工事場の現場**　麻浦渡場にては目下頻りに船橋架設工事を取急ぎ居るが何分韓人側の**反對激烈**なる爲め**再々不穩**の所爲あり爲めに龍山署より特に一名の巡査を派して是が**警戒**に備へ居れりと云ふ是を以て見るも韓人等の反對如何に**甚だしき**やをも推察せらるべし

▲**設計を改めよ**　船橋架設なる者の**水運を阻害**するの理由は今更新らしく喋々する迄もなければ茲に之を略し吾人は唯是が設計を改めん事を要求する者なり現今既に着々として該工事の歩を進めつゝある上田なる者には今となつて設計模樣替の如きは大なる**苦痛**なるべきも該船橋架設後には夫より以上の**苦痛**を感ずる者**幾何**なるかをも**考察**せざる可からず假りに今是を架設なしたりとせんも遠からずして批難續出し且つ**營業**者自身も到底**永續**し能はざるを自覺するの時期あるべし依て吾人は寧ろ**現在**に於て是を改たむるの**得策**なるを想ふ者なり

▲**巡航船的通船**　吾人は昨年來より現在の漢江水流に於ける韓式渡船の**不便**些からざるを想ひ是が改造設計を屢々立案なしたる事あり船橋案然り、普通運船然り、高架架橋案然り然れども此の諸案中最も吾人の**意**を**得**たる者は**巡航船的通船**の比較的利多くして害少きを認めたり

▲**設計一部變更**　回を重ぬると三回の本日吾人は或る筋より**一部設計の變更**を行ふ由を耳にしたり未だ公然の發表は非ざれども現在の船橋架橋設計に倘ほ一つの船舶**通交口**を其の西方に設ける由なり從前の儘よりは多少便利ならんど吾人元より斯くの如き**些々**たる變更を以て**滿足**する者に非ず只爲したるは爲さゞるよりも**勝れり**と云ふのみ

▲**度支部の反對**　**度支部**の如きは麻浦船橋架設問題なる者一度諸人の**問題**となるや大反對を唱へ出し**内部**に向つて**極て强硬**なる**交涉**を始めたる由なるも時既に許可狀下附の後なりし爲め如何ともする能はざりしと云ふ

▲**韓人等の反抗**　麻浦近在の住民船橋問題に反對するや之が鎭撫策に**威力**を用ひて盡したる龍山上田某の力如何に大いなるかは知らねど團結したる**人の力**は倘大なる者あり見よ若し萬一船橋此のまゝに落成なせし後の**紛亂喧爭**を、爲めに蒙る水運業者等の**迷惑**を、

▲**腰抜けの民長**　やれ**民會**のやれ**凝議會**のと一時大騷ぎを爲して**許可取消**迄を申請なしたる**龍山民長**の内部に於ける取消し**振り**や如何、當時の如き遣口なれば何故に最初より**設計變替**を申請なさゞりしや取消さぬ積りにて**取消**に往く**腰抜け**が何處にある。吾人倘云ふ處多々益々なりと雖も贅筆は却つて功なし一と先是れにて擱筆し**今後**共倘**一二三**て後日に見ん、**船橋**を他に許可して**愈々**漢江の**水運**を**阻害**せんとせば吾人の筆は**赤裸々**に彼等醜類共の内情に立入つて**痛棒**を見舞はん（完）

迎ふべき珍客

▽一行三百名の梅、常陸

湘南片瀨の別莊に靜養中なる曾禰統監には數日前日頃贔負にする相撲花籠事元荒岩を召されて東京力士を韓國に招きて同國人に倘武の氣風を興奮せしめん事は余が年來の希望なりしも遂今日まで話し出す機會を得ず遲延なし居たる次第なるが同國には小相撲の渡來する事は屢々聞く處なるも一として見るに足るものなし若し東京相撲協會にして第一流より第三流までの間にて相應の力士を選び渡韓せしむる事至極面白からんと思ふ然る上は先づ京城にて天覽相撲を興行したる後平壤釜山等順次數箇所を巡業せしめなば雙方共に益するところ大なるべく興行其他の事に就ては十分の便宜を與ふべしとの難有き仰に花籠は早速協會に歸りて此相談に及ぶと雷 友綱兩取締は斯道發展の爲にもなる事とて大に喜び直に快諾したれば協會は之れより重立たる力士と協議を遂げ先づ一行の人數は二百五十名乃至三百名位と定め來る五月の大場所打上げ後直に渡韓する見込みなりと

床梅の退韓

▽賭博親分の處分

和歌山縣和歌山市北の新地下六軒町五〇の平民當時旭町一丁目無職賭博チーハーの首領床梅事**曾根田梅吉**（四三）は當地理事官より地方の**風俗安寧**を防害する者と認められ一昨二十五日向ふ二箇年間の**退韓**處分を命せられ昨朝本國に向つて出發したり同人は去る三十八年頃渡韓仁川在住の頃より表面理髮業を營むと雖も其の實無賴の徒を集めて賭博を開帳し翌年末來京の上本町五丁目附近に居を構へ不相變乾兒なる**無賴漢**を多人數集結し殊にチーハーと稱する者を**開帳**して婦女細民の射倖心に乘じ多額の金錢を卷き上げ居たりし爲め當理事官より再三說諭を受けし事あるも聞かず依て此度遂に當地方の風紀治安を紊亂せしむる者と認められ退韓せらるゝに至りしなりと倘當局にては此際是等無賴の徒を根本より**掃蕩**する由なれば今後は風紀上多少**面目を改**むべし

●日曜の敎會　京城基督敎會●●●●日の出町同敎會にては本日曜日午前九時半日曜學校同十時半禮拜說敎午後七時半傳道說敎あり演題は朝『富と信仰』川本氏夜は『隱れたる寶』上杉氏『靑年と宗敎』石川氏

●靑年會館の講演　昨土曜日は午後七時三十分より旭町四丁目基督敎靑年會館に於て『木と魚』と題する農商工部技師齋藤音作氏の講演ありたるが來會者多數にて中々の盛會なりき

●石橋商店の時計　東京本所松井町石橋商店は鐵道院の御用として有名なる時計店なるが今回直輸入せる安價時計を賣出せしに頗る好評ありて賣行き頗る盛なりと云ふ

●ロンドン土產毛生藥　本劑は前總理大臣秘書官男爵が英國より歸朝の際にもたらせる毛生藥にして小川一眞及其他知名の人々實驗し其効確實なる事は世既に知悉せる處にして禿頭うす毛の人及毛主に困む者の爲め東京麻布村木町四八桝田二郎方より發賣する由但毛髮界の福音ならんか

演藝

▲龍山座　伊藤一座の同座本晚の替り狂言は一番目『正直者』七場二番目は元祿快擧別錄『土屋主税』二場にして其役割左の如し　車夫仙吉、落合萬兵衛（泉）課長馬淵禮三（池内）省吾妻た靈（西井）機關長大川武淸、坂本藤右衛門（芳川）課長山井亭（吉井）副官守山中尉、寶井其角（横山）令孃秀子（寶井）仲居れ八重、侍女荻野（津村）宮田哲夫、侍女れ園（藤島）社長堀田信厚、大高源吾（小泉）郎黨木阪藤左（小伊東）藤妓米八、侍女五月（東）省吾母れなか、仲間鹿造（北秋）土屋家小姓（髙井）火夫水野省吾、旗本土屋主税（伊東）

▲京城座　同座本晚の藝題は『明治の壽歸七化れ新』の通し物にて其の重なる役割は　正木良一（伊井）近所の者、憲兵（瀨西）近所の者、憲兵（西尾）仲居れ島實は七化れ新（桂木）正木れ花（金澤）稻葉幸七、憲兵（川崎）憲兵伍長吉村、近所の者（潮）田舍紳士畑野木兵衛（八島）占辻賣實は刑事櫻井貞（秋岡）憲兵島田淸一（美崎）牛乳配達、憲兵（光田）醉漢吉公、憲兵（淸水明）上州無宿の次郎藏（瀨川）

▲歌舞伎座　同座本晚の藝題は小泉の十八番『女裝の男子女七之助』の通し者倘明日の替り狂言としては『三ヶ月れ六』にて以前木村猛夫が當地にて髙評を博せしものなり

▲浪花館　同館にては三月一日より大阪初下りの浪花節廣次菊丸一座五名の多人數にて賑々敷興行する由なり

新町女郎公判（一）

▽井門支店女郎の訴訟

去る二十二日の本紙三面欄内に妻枝の惣嘆と題する記事掲載ありたるが夫れが爲め本日其撰本尊たる妻枝女郎より同支店内の濱次女郎を訴訟代理人として該記事の投書人と認むる同じ支店内の幸子女郎を對手取り本社に告訴を提起したれば本社は玆に原被兩人を召喚して滑稽裁判を開き審理を遂ぐる事となせり

韓國京城新町井門支店
原告　源氏名妻枝事　鈴原セツ　十九歲
右訴訟代理人　源氏名濱次事　内木シヨ　廿二歲

韓國京城新町井門支店
被告　源氏名幸子事　佐原ケイ　十九歲
右訴訟代理人　源氏名月枝事　林マサ　廿二歲

一定の申立

被告幸子は虛僞の事柄を構へて原告の人氣及び体面を傷けたる者と思惟するを以て原告は被告に對し是が名譽回復及び依て蒙りたる原告の損害即ち客先きへ差出したる該件辨明の郵送料、之が爲めに登樓せし一客への身揚り料、三晩續けにれ茶挽きせし身代、合計金十三圓五十錢の損害賠償の訴訟を提起する者なり

證據書類

一、甲第一號證　明治四十三年二月二十二日發行京城新報第三百四十號　一部
一、甲第二號證　花山帳一冊
一、甲第三號證　被告幸子直筆狀一通

理由

被告幸子は去る廿二日の京城新報紙上に原告は頭の髷が江戸式庇髮の些度小意氣な點あるより夫れを唯一の材料として鼻下長連を購着し云々と暗に原告を以て薄情女の如く記述したる一文を投書し且つ大姐はんに舌を卷かすと稱して姐はん連より原告の信用を失墜せしめしのみか却つて其の反感を起さしめ殊に原告が毎夜大部屋に閉じ籠りて思案投首毎夜のれ茶挽を歎きて悲痴嘆息に日を暮し云々と全々虛僞の事柄を揑造投書して甚だしく原告の面目を傷けたり

以上列記の事實は京城新報第三百四十號（甲第一號證）提出の通にしては全く被告が原告の娼賣上に於ける全盛を妬み中傷を企てたる者にして原告は之が爲め原告の愛戀贔負を呼けなうする敵多きれ客樣に對して申譯なきのみか姐はん連の信用を失ひ從て之が虐待を受くるのみか娼賣上に於ける繩張を根底より破壞せられ人氣を失墜せしめられたるは現在の事實明かに證明する處なり（甲第二號證花山帳）而して該投書が果して被告幸子に依て投書せられたるや否やに關しては鑑識なさは直接判明する處にして現に三號證幸子直筆の筆跡を投書と比較原告の同輩駒、龍、筆子及仲居の福、里兩名の如きも之を證言して事實と認むる處なり

右告訴狀は理由ある者と認むるを以て本社滑稽裁判長は之を受理し更に明日被告幸子を召喚の上公判を開廷すべし

▲平民文庫▼

▲過日の本欄に韓武官に巡査の護衛が附いて居たさかで珍がつて御座つた人があつたが何にも珍なことなし日本でも三浦將軍には護衛巡査が附いて居るよ（通報子）▲大阪西方の大關放駒は再び東京へ脱走した相だよく／＼飛び歩きたがる男と見る（平凡君）▲放駒だもの疾驅のは當然さ（小僧）▲上水や下水が汎濫して天下の公道を害ふ所多し當事者の注意を望まざるを得ない（通行人）▲新町遊郭樓主に告ぐ、小生先夜○○に登樓致し候處揚代の高いには驚いた少し安くしては如何です（新渡韓者）▲各新聞が滿韓貿易を論ずるのを見ると少なし少しく題目を捉へ來つて在留民の啓發に資せられんことを望む（希望生）▲百萬金を投じた統監邸は美事なもんだが統監の移り住むのは何日だか心細い次第だ先づ當分はアノまゝとして置くのか夫れも宜からう併し年五分として五万圓壹割とすれば拾萬圓は何にもならずに消へる譯だれ上ところ出來る勘當だ（鈍唐漢）▲淸月樓のイロハ君に告ぐ、れ前の丸髷姿を今一度拜見願ひたし實に美女だよ常盤御前か朝御前のれ茶漬け面だよ（商人）▲駄目太生に申す不景氣の爲めに新聞購讀を廢したから主人を見限るなんて惡い了見なり凡そ奉公人は至誠天を感ぜしむるの心掛けなかる可らず己が勤勉努力を主人の認めざるも何かあらん唯々己が勉めの足らざるを憂ふべし新聞購讀を廢するが如き何の論ずる所かあらん場合に依らば寢食を忘れて働くべし予元より不敏、口能く之れを云へど行の副はざる所頗る多しと雖も唯常に心を玆に致して理想に近づかんことを思へり之れ一つには我身の爲めなればなり（仁作）▲駄目太君一矢を酬ふべし（小僧）▲日本へ行きたいナア新聞で見ると月ヶ瀬の[illegible]▲井門の月枝は[illegible]るのだ相だ○○[illegible]つても到底駄[illegible]方で厭だ厭だ[illegible]さり樣では或[illegible]

（版）（第三種郵便物認可） 明治四十三年二月廿七日 京城新報 （日曜付） 第三百四十五號